

講座風景 5月

とよたシニアアカデミー 共通講座 ②

「防災について考える」

日時：令和6年5月14日(火)10:00~11:40

場所：豊田市福祉センター

講師：P-BASE 防災士 栗本浩一氏

豊田市社会福祉協議会 鈴木進一氏

まず初めに、今年の元旦に起こった能登半島地震について、実際に社会福祉協議会の職員として現地へ支援に入った鈴木さんから、能登半島の今の暮らしについてお話を聞きました。

そして、防災士の栗本さんから、元旦の当日何をしていた？もし、もっと大きな地震だったら、最初に自分は何をする？大地震の時、心配してくれる人にどうやって無事を伝える？自分たちの「備え」は？など問われ、自分だったらどうするか想像をし、備えることが大切だということを学びました。

最後に地域ごとのグループで、前半の話の感想や、地震ハザードマップを見て情報交換をしました。みなさん身を乗り出してハザードマップを見て、熱心に話し合っていました。



▲左から栗本さん、鈴木さん



各家庭に配布されているハザードマップ



もっと大きな地震だったら…

安否を知らせる黄色い小旗



色分けされた震度分布図で確認



- ・能登半島の現状を聞くと、前もっての対策の必要性を感じました。
- ・能登の人たちの「普通の日常に戻りたい」重い一言に胸が痛みました。
- ・猿投山のところに2箇所地下断層を確認！改めて危機感を持ちました。
- ・ハザードマップを見ると、私の住んでいる南部は液状化現象になる確率が高い地域だと改めて認識できた。対策はしてあるが、能登半島地震の被害状況を見ると心配になった。
- ・班別メンバーの居住地が近いので、共通話題が出されてよかった。
- ・飲み水以外はやっぱり風呂の水をためておいた方が良かった。皆の意見でした。
- ・災害についての経験がないため、日頃では意識が薄れていく。こうした機会に真剣に考えないといけない。いい講座があつてよかった。
- ・食品のローリングストックがうまくできていないことを実感しました。その都度期限を確認しないとダメですね。
- ・「あなたが心配になる人、心配してくれる人はいますか？」の問いに少しドキッとしました。「生きているよ」ちゃんと伝えます。
- ・日頃から近所のお付き合いを見直そうと思いました。防災訓練にも積極的に参加します。

受講生の
ふりかえり